

アトリエ 琉游舎 だより 23号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2018年3月28日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

お花見 & 花まつり

○コリーナはちょっとした桜の名所です。そこかしこに桜が花開く季節となりました。桜は不思議な花です。この冬は平年より気温が低かったのに、桜の開花は平年よりだいぶ早いようです。葉っぱが出るより先に花が咲きます。落葉樹の中では真っ先に秋に葉を落とします。1年のうちで私たちが桜を意識するのは開花して散るまでのせいぜい2週間ほど。残りの350日余りはそこに桜の木があっても誰も気づきません。人によっては通行や日当たりの邪魔で落ち葉が迷惑なただの木です。

♪咲いて知る そこが桜の 並木道 お釈迦様でも 知らぬ仏の 花まつり♪

○4月8日は花まつり。お釈迦様の誕生をお祝いする日です。この日は灌仏会や釈尊降誕会などと呼ばれている仏教では大切な日のひとつです。お花見は仏教とは全く関係がありませんが、この時季は山も里も生き物が活動し始める生産の季節の始まりであり、五穀豊穡を願う祭礼の季節です。飲食をしながら春の明るい陽と緑の芽吹きの中で満開の桜とともにお釈迦様のご誕生をお祝いするのも、また日本人古来の喜びと希望、感謝と畏怖の表現なのでしょう。

○琉游舎の南側に1本桜の木があります。4月8日はお花見 & 花祭り。

4月のスケジュール

			29 映画会 13:30	30	31	4月1日 写経会 13:30
2	3 写経会 13:30	4	5 映画会 13:30	6	7	8 お花見 & 花祭り
9	10 読書会 13:30	11	12 映画会 13:30	13	14 詩話会 13:30	15
16	17	18	19 映画会 13:30	20	21	22
23	24 読書会 13:30	25 居酒屋の会 16時～	26 映画会 13:30	27	28	29
30	5月1日	2	3	4	5	6 写経会 13:30

写経会

4月1日(日)
4月3日(火)
13時半から

読書会

4月10日(火)
13時半から

詩話会

4月14日(土)
13時半から

映画会

毎週木曜日
13時半から

恐る恐る出した芽で風の穏やかさを探っていた植物や、きよろきよろと様子見をして餌のありかを探っていた鳥たちが、春分の日を境に自信をもって存在を主張し始めたようです。人間も生き物の発散する音や色や臭いなどの生命力に圧倒されないように、自らの生のエネルギーを外に向かって発散する時がやってきました。冬の寒さにさらされるほど桜の開花が早くなること、これを休眠打破と言うようですが、今年の冬は寒さが平年よりも厳しかったようなので、すべての生き物は、冬の休眠期間中にたっぷり蓄えたエネルギーを、一気に打破して、今この時あふれんばかりのパワーを放出しているはずです。

「青春、朱夏、白秋、玄冬」という言葉があります。人間のライフサイクルを季節の移り変わりに重ね合わせた言葉です。青春は緑の芽吹きの時、未熟だが勢いと希望に満ちあふれた青年たちです。朱夏は真っ赤に照りつける太陽の時、人生の盛り真夏の成年。白秋は天命を知り人生に深みと落ち着きが出てくる中年。玄冬は安らかな場所を定めて、心置きなく彼岸へと向かう老年。「春夏秋冬」という一年のサイクルを何度も繰り返しながら「青春、朱夏、白秋、玄冬」という一生のサイクルを全うする。これは人の生きるあり方の一断面です。季節の移り変わりのサイクルのように、私たち人間も規則的な自然の摂理に任せて一生を過ごすことができれば良いのですが、なかなかうまくはいきません。かく言う私も本来ならば白秋の時なのですが、今の自分の体力・気力・智力をあきらめることなく、毎日「青春－朱夏－白秋」の間を行ったり来たり右往左往、悪あがきをしているようです。

人はあきらめの悪い生き物です。人以外はとてもあきらめの良い生き物です。自然や社会や他者に時には抗い時には協調しながら何とか自分の生きる場所を確保していこうとするのが人間。与えられた自然や社会や他者との環境を自分の生きる場所とさとり生きていこうとするのが人以外の生き物。「あきらめる」は「諦める」と書きます。望んでいたことの実現が不可能であることを認めて、望みを捨てる。断念する。と言うような意味合いで使われる言葉です。とてもネガティブな言葉ですね。言葉は長いあいだ使われていく過程で原意が変わっていき、変わった結果がその言葉の新たな意味になってしまうことはよくあることです。言葉の変遷のその過程を忘れてしまうのです。「諦める」は「あきらかにする」「つまびらかにする」が原意です。仏教で「諦」の字は「真理」「真実」という意味です。「諦念」は「道理を悟って迷わない心」をいいます。「諦念」＝「あきらめの気持ち」は「悟りの心」と言うことです。私たちが現在使っている「あきらめの気持ち」にはどこか投げやりな夢も希望もないという心が裏に透けて見えてしましますが、本来は、すべてをありのままに観ることによって真実をあきらかにし、心安らかになることを意味している、とてもポジティブで主体的な言葉なのです。

なぜポジティブがネガティブに変わってきたのでしょうか。この意味の変遷の思考プロセスを自分なりにたどってみます。「諦める」ことで物事の真理や道理が「明らかに」なる時、それは自分の欲望が実現できない理由が明らかになる時でもあります。そもそも欲望は執着と無知と貪りの心からおこる煩惱なのですから、「諦め」れば「諦め」るほどその欲望が達成されない理由は「明らかに」なります。そしてその欲望は仏さまの言われる真実の姿、正しい教えとは正反対のものだと納得しその欲望を断念し「あきらめる」のです。「諦め」ずに「あきらめる」だけならば悔いや恨みや愚痴だけが残り、愚かな私たち人間はまた新たな欲望を求めて、「諦め」ずに「あきらめる」ことを繰り返すのです。その繰り返しのプロセスの中で人は欲望を実現するために、努力し科学を発展させ、戦いをし、破壊してきたのです。人はあきらめの悪い生き物ですから、無知と貪りと怒りという煩惱の海を何とか溺れないようにと、必死になって手足をばたばたさせ、もがき苦しんでいるのです。「諦め」ればその煩惱の海から上がって、やすらぎの岸辺で心穏やかな日々を過ごせるはずなのに。

「諦める」は「願いを自覚」すること。「あきらめる」は「願いを放棄」すること。仏さまの願いを明らかにしそれを自分自身の願いとして誓い行うことが「諦める」こと。自分の欲望がかなわないことが分かりその欲望を放棄することでまた新たな欲望に向かうことが「あきらめる」こと。「欲望」はどこまで行っても欲望で決して願望にはなりません。「願い」「誓い」「行う」ことにはならないのです。ただ「願望」と「欲望」の区別はなかなかつけ難いので、「あきらめる」ことは簡単にできるのに「諦める」ことは困難なのです。なぜなら「人はあきらめの悪い生き物」なのですから。

「あきらめないで」と唄った歌は数多ありますが「あきらめましょう」と唄った歌は寡聞にして聞いたことがありません。やっぱり人は「あきらめない」で前へ前へと立ち向かうことが好きな生き物なのです。私も自分の体力・気力・知力をあきらめないで、「願望」と「欲望」の間を

行ったり来たり悪あがきの毎日を過ごして行くことが

「諦念」への近道と信じて、今回の筆をおきます。

それではまた次号でお会いしましょう。（出琉）

琉游舎：戸井 出琉・恭子

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>